

「石材再生友の会」会報誌(ケイ・アンド・エス)

萌黄 (もえぎ)

通信

2006年 1月号 NO.29

<http://www.e-kands.jp>

萌黄通信は写真入になります

施工写真をたくさん掲載していきます。メールアドレスをお知らせください。



甲府の駅前の「光のピュシス」

1月15日まで、甲府駅南口の舞鶴城はイルミネーション中です

萌黄通信

発行元有限会社ケイ・アンド・エス

本社 電話 0556-22-3237

山梨 Fax 0556-22-3236

東京(営) 電話 03-3431-0387

新年明けましておめでとござい
ます。今年も昨年以上に技術向上に
励みますので、よろしくお願いたし
ます。
今年、景気も上向き傾向にあるよ
うですので、皆様と一緒に明るい一年
にしていきたいでしょう。

「イタリア紀行」④

シエナ地区

フィレンツェの隣にあるシエナ。歴史上でも13世紀にはフィレンツェと対立にあり、大聖堂も世界一を目指しただけあって、装飾にかなりの意匠がこめられています。



左は鐘楼で蛇紋岩

と白の大理石を交互に横縞模様の装飾です。上になるほど窓のアーチが増えています。



大聖堂の外観は、聖人や動物などの石像が飾られています。

大理石の白華(エフロ)現象

今回の石材メンテナンスは、大理石の裏面からの白華現象を紹介いたします。室内なのになぜこのような状態になるかという、外に池があるからだと思像できます。池の水が常に溜まっている状態なので、水分が石の裏面から回って大理石(クレマ・マーフィル)の筋目の多いところから湿気と一緒に溶け出したコンクリートのアクが、このようなツヤボケ状態を起こしてしまったような感じです。対応は、簡易的な研磨で、表面上のアクの除去は可能です。しかし、常に水が溜まっているので、しばらくすると、また元の状態に戻ってしまうでしょう。もし本格的な、処理をするならば、池の水を月単位で抜いて、石の裏面の水分を出来るだけ乾燥させることが必要になってきます。そして、乾燥のいい状態で、吸収防止効果の高いコート剤を塗布します。

これを塗布して、深い浸透層のあるコートバリアが形成されれば、アクの吸上げは、止まらなくなるのですが、現状は、理屈通りには行かない事が多く、再施工を繰り返す事になります。だから、本来は新築時に石を貼る前にコート処理をする(製品塗布)事をお勧めしています。



「よくある質問コーナー」

(Q) 大理石に付いた茶色いシミを取ってほしいのですが、どうにかかりますか? (M 豊)

(A)

この大理石にできるシミは、かなり除去するのは厄介です。通常では、シミ抜きしてもダメな場合は、張り替えることを前提に施工する事が多く、こちらからは積極的には、取れませんが営業出来ないところがツライところです。原因は、この大理石のもつ鉄分が酸化して、茶色いシミを作っているのではないかと考えられています。

今回の現場は、個人邸の浴室で、このシミが出て一〇年以上もそのまま、今回リフォームした時、このシミがどうしても気になるということで依頼が来しました。工期は一日ですということでしたので、(本来ならば湿布施工となるので最低2日以上は欲しいところです)、湿布を午前中で済ませて、後はドライヤーなどで熱を加えて、洗剤の効力を高める方法で、シミを抜いていきました。

一日施工でも、ある程度は薄くなるのですが、完全除去には及ばず、シミの形が薄っすらと残る形で終了しました。やはり時間をかければもう少し綺麗になるとは思いますが、この手の仕事は工期が全くもって、現場によってまちまちなので読めないのが難しいところです。



(注)シミが抜けても、裏面からの発生している茶シミなので、暫くすると再発の可能性もあります。